



進献標本が入れられていたキャラメル箱と同型のもの。

写真：南方熊楠顕彰館（田辺市）

超天才・南方熊楠とは

熊楠の有名な逸話といえば、1929年に昭和天皇に献上した標本入りのキャラメル箱。田辺湾の神島に行幸された際、熊楠は変形菌や海中生物について御前講義を行い、標本を献上したのがキャラメル箱だったという。かねてより熊楠の一風変わった人物像が伝えられていたのでことなきを得たが、昭和天皇は「あの衝撃は忘れられない」と語ったという。後年の熊楠は18ヶ国語を操ったといわれ、³「ロンドン拔書、でも、英語をはじめスペイン語や仏・独・伊語など8種類の言語で書かれていたという。



晩年の25年を過ごした顕彰館に隣接する旧南方邸。明るい緑側に座り顕微鏡を覗いていたという。当時の記録に基づき忠実に再現された庭には、変形菌の新種⁴「ミナカデルラ・ロンギフィラ」を発見した柿の木も。

南方熊楠顕彰館

住所 / 田辺市中屋敷町36 電話 / 0739-26-9909



元の姿を取り戻しつつある 神々が談笑する円座石(わろうだいし)

熊野古道の難所として知られる⁵「大雲取越」。その道沿いに鎮座する⁶「円座石」を覆っていたコケが、ほぼなくなっていたと報道されたのが2015年。全体が不自然に剥げ落ち、人為的にはぎ取られた可能性が高いとされた。採取に罰則などがない区域だが、神秘的で神聖な場所ゆえ、ショックも大きかったが、熊野の自然のパワーは絶大。元に戻るまで5年はかかるだろうといわれていたが、2年経った今では随分とその姿を再生しつつある。

和歌山市に生まれ、田辺市で晩年を過ごした南方熊楠。日本を代表する博物学者であり植物学や天文学、語学にもその才能を発揮し、民俗学者柳田國男をして「日本人の可能性の極限」と言わしめた⁷「知の巨人」である。幼少期よりそのずば抜けた才能は目立ち、当時の百科事典にあたる⁸「和漢三才図会⁹や、¹⁰「本草綱目」などをまるでコピーのように正確に筆写した逸話は有名である。また好奇心が旺盛で、植物採集に熱中し過ぎたあまり、山中で行方不明になり天狗にさらわれたと噂されたこともあったという。

教室で学ぶ学問が合わず、現在の東京大学を自主退学した熊楠は、実家に相当な無理をいつて渡米。サーカス団などに身を置きながら世界各地を巡り、大英博物館で働き、科学雑誌「ネイチャー」に論文を多数寄稿した。世

知の巨人、南方熊楠が 愛した景色には 生命が満ちていた

界中を旅したそんな熊楠が終生のフィールドワークの場を選んだのは、生命の宝庫¹¹「熊野」であった。熊楠にとってそこはまさしく宝の山。キノコや変形菌(粘菌)類の採集・研究のため、野宿などをしながら野山を駆け回った。¹²「黄泉の国への入り口とも、モノノケが棲む山々ともいわれる熊野は、日本人の精神世界

の原点ともいえる場所。見渡す限り連なる山々は「熊野三千六百峰」と称され、熊楠自身も那智山の原始林の中で「ダル」と呼ばれる妖怪に取り憑かれたこともあったという。山々の遥か向こう側に陽が落ちると、森は少しさわめきだす。モノノケたちが目覚める時刻である。

*Landscapes
who loved wakayama*



百間ぐらからの景色>熊野三千六百峰。その言葉通り目の前には見渡す限り山々が連なる。この遥か向こうにあるのは、京の都か、あの世か？熊楠はこの景色の向こうに何を見たのだろうか。



那智原始林>熊楠が研究の為に立ち入った原始林。数百年数千年、それ以上にも及ぶ生命の営みは、それ自身が「神々しい」。